



発行所  
三池炭鉱労組  
大牟田市不知火町2  
電話 330334  
編集兼発行人 渡田紀生  
年間600円 送料共

組長交流会の日程  
このように確定しました。  
第一回 十月五、六、七日  
第二回 十月十二、十三、十四日  
第三回 十月十九、二十、二十一日  
第四回 十月十九、二十、二十一日

# 目に余る職制の保安無視 これでは災害が倍に

## 三川坑口統合計画に怒りが広がる

宮浦鉱の閉鎖、三川鉱への統合を中軸とする、会社のこんどの第四次合理化計画は、何を以てても坑内保安をますます危機におとしめるものとして反対するいきおいが強まっているが、それを裏書きするものとして、問題の三川鉱の坑内では相次ぎに「ソツ」とするような職制の保安無視が摘発され、現場に怒りを燃えあがらせている。

こんど三川鉱の坑内現場——上層三十三で発生した一係員のおどろくべき保安無視が、現場に怒りを呼び起している。

去る十二日、甲方の浦川保発係員は、三十大昇三片のライターがこぼれたので、ダイナマイトを爆



昭和38年11月9日の三川鉱大爆発。この惨事をわれわれの上に再現させないため、第4次合理化阻止を闘い抜こう。(大爆発の日午後3時15分の三川鉱)

### 組長交流会の日程

このように確定しました。

第一回 十月五、六、七日  
第二回 十月十二、十三、十四日  
第三回 十月十九、二十、二十一日  
第四回 十月十九、二十、二十一日

には、さすがに新労組員の人々も「徹底的に責任を追及しなければならぬ」という怒りが広がっている。

### 組長交流会始まる

#### 闘いを強めるテコにしよう

今年もいよいよ組長交流学習会がはじまりました。

第一回はすでに七日から九日まで

「と怒りを燃えあがっている。この浦川係員は、七月三十一日にも目に余るその保安無視を現場から抗議され、さすがに保安部からも特別を受けている人間。

現場では「もう許せない」と上部職制に嚴重に抗議したところから、あきれたことに副長から指導部に「あんな小さなことで目のうるをかえてもらってはこまる」とさかねじの電話だった。現場には「ソツとほくせん。こんなことで宮浦は統合して見る。人も倍なら材料も倍。三井ボケした係員も倍になる。それで災害も倍だ。第四次合理化はいよいよ許されん」とはげしい怒りが広がっている。

(三川七分会上層三十大第一のポケット・ニュースから)

### 分会交流会始まる

#### 三池主婦会、意志統一へ

三池主婦会はいま、分会交流会運動をすすめている。

この九日、いま坑口閉鎖などというきびしい第四次合理化攻撃に直面している宮浦鉱の坑内で落盤事故発生、その下敷きとなって三池新労組員の目野正義さん(四十五才、馬渡社宅)が死に、三井の生産第一主義の犠牲となった。

### 目野さんの死に

#### 怒りがひろがる

この九日、いま坑口閉鎖などというきびしい第四次合理化攻撃に直面している宮浦鉱の坑内で落盤事故発生、その下敷きとなって三池新労組員の目野正義さん(四十五才、馬渡社宅)が死に、三井の生産第一主義の犠牲となった。

落盤は同坑内本層五十二脚二一五才、馬渡社宅)が死に、三井の生産第一主義の犠牲となった。

そのために、ちやうどこの下で

される現在、いくぶん延期を余儀なくされよう。

この交流会でもおもしろい内容が、第四次合理化攻撃をうけている現在、第一に「現場闘争はどうか」、第二に「合理化阻止行動はどう闘うか」ということについてだった。

この交流会をすすめる組織部としては、さらにより交流会とするためにアンケートをもって意見を問うたところ、「今回の交流会は成果があった」とした回答が八九・四パーセント(五十九人)にのぼっている。しかし一〇・六パーセント(七人)の人が「成果はあまりなかった」と答えている点見のがしてはならない。

そのほか「無理な日程計画」「三・九パーセント」、「もっと時間をかけてほしい」「一七・一パーセント」、「論議が集中できなかった」「二五・八パーセント」、「意見が出しにくかった」「三〇・三パーセント」など、出された声は注目すべきだろう。

なお組長交流会は今回が三年目で、これが三池の闘いを強化するテコになることを強くのぞんでいる。

### "総値上げ"に怒り！ 消費者の運動高揚へ

九月三、四日、東京で開かれた米価審議会には、消費者米価値上げ反対、食糧制度の堅持をきかんと、四千人の全国代表がすわりこんだが、会場で、神奈川代表のある主婦は「新聞に載る一家心中の記事は人ごとはない。物価値上げで家計は油でにられるような苦しさだ。でも、苦しくとも生活を投げだすわけにはいかない。一人でも仲間をせよし、たたかい続けろしかならぬ」と訴え、共感の拍手をあびていた。二日間の米審議争の結果として強調されたのも、消費者米価値上げ反対運動を地域現場の毎日の活動として、宣伝や話し合い、自治体交渉などをこつこつと行っていくことだった。

政府は、来年度も、総合予算主

【KNA】佐藤内閣の消費者米価四年連続値上げの決定をきくにつけ、物価総値上げの動きが強まってきた。予想される値上げは、国鉄、私鉄運賃、国立大学授業料、電報・電話料、タクシー代水道料など公共料金を先導に、ビール、パン、うどん、とうふなど日常生活品も上がる。

九月十三日「天道・野添、十四日「鷲・馬渡、十五日「小浜南

山吹、十六日「宮原・小浜北  
十七日「月見ガ丘・新港、十八日「白井・敷島、十九日「四山・朝日ガ丘、二十日「七夕・東谷、二十一日「大砂・西原、二十二日「原方田・宮内、二十三日「通松・大平、二十四日「弥生・日井建設、二十五日「紅葉ガ丘・大島、二十六日「西町・宮前、二十七日「大島・土手山下、二十八日「新港・龍湖瀬、二十九日「大島・長瀬、三十日「連方・白井本所。

「みいけの闘い」田川公演、十月二十七、二十八日に川市において公演されること決定した。

この公演は田川における青年たちの組織である「田川反戦青年委員会」が主催しておこなうもので田川地区の労働者、市民、高校生を動員する準備が着々とおこなわれている。

なお、このあと飯塚、直方でも上演の話がすすめておられ、活動の成功が期待されている。